

TOBA
鳥羽少年探偵団
ぎょうみ しんしん とほ いろ
興味津々、鳥羽の色。

第4期鳥羽少年探偵団報告書



平成16年度



指令：攻玉の精神を学べ

はじめに

平成13年度よりスタートした鳥羽少年探偵団。中学教諭や一般市民ふんする明智小五郎の「指令」に基づき、中学生が地域ゆかりのある人物や場所を探索します。生徒自身が地域の歴史を掘り起こし、教科書では学べない生きた教材に触れることがねらいです。これまで、3期にわたり鳥羽市ゆかりの偉人について調査・体験学習を通して、その足跡を市広報などで地域に広めてきたことで地域資源の一つとして活かしていきます。第4期目となる平成16年度は市内6中学校12人の団員と明智小五郎役を迎え7月に結成しました。今期は、明治六大教育家の一人で、日本の商船教育の先駆者として活躍した近藤真琴を調査し、8月には東京都品川区にある攻玉社学園を探索しました。また、「江戸川乱歩と大衆の20世紀展」が東京・池袋の東武百貨店で開催され、鳥羽少年探偵団は特別ゲストとして、オープニングセレモニーに出席しました。

◇結団式に集まれ

日時	平成16年7月3日(日)
場所	鳥羽商船高等専門学校



〔OBの松本さんから説明を受ける〕

午前9時、鳥羽商船高等専門学校佐藤校長、鳥羽商船高等専門学同窓会落合会長をゲストに、結団式を百周年記念館で開催しました。

地球塾運営委員会奥野委員長より任命書とバッジが渡され12人の第4期鳥羽少年探偵団が誕生しました。



〔勝海舟書の近藤真琴翁記念碑前で〕

◇第1回学習会 カッター体験せよ

日時	平成16年7月3日(土)
場所	鳥羽商船高等専門学校 池の浦、坂手

バッジを受け取った団員達は、商船OBの松本暢生さんを講師に「近藤真琴」について

学びました。その後、商船学科の伊藤教授とカッター部6人の協力でカッターに乗船しました。全員が初めての体験だったため「オールを動かすのが大変だった。」「みんなで力を合わせててやっと船が進んだ」などと話していました。



午後からは、江戸川乱歩と大衆の20世紀展に参加するため、坂手の村万商店を訪れ江戸川乱歩や妻・隆さんの資料を調査したり、池田さんから二人の生活の様子など乱歩の秘話を入手しました。



[池田さんから話を伺う]

第4期から調査ファイルが登場！

◎団員達は、自分の調査ファイルに調査した内容や学習会のポイントを記入。

◇第2回学習会 鳥羽丸に乗船せよ

日時 平成16年7月27日(火)
場所 鳥羽湾

午前8時45分出港。鳥羽商船高専の練習船「鳥羽丸」(244トン)に乗り、伊勢湾上で体験実習を楽しみました。

〈実習その1〉

海の真ん中で船の位置をどうやって知るの ～航海学の基礎～

ブリッジで中村船長と鈴木一等航海士から船の位置を知る方法や、航海に使う装置を学びました。



〈実習その2〉

船の上で海の様子を調べる ～海洋観測衛星を使って海洋環境を知る～

船内で石田助教授から海洋観測衛星 NOAAからの画像を受信して、海洋の様子を調べる方法を学びました。



〈実習その3〉

船を動かす機械はどんなもの？～船の機関～

エンジンコントロールルームで竹内機関長と古布一等機関士から船の機関について学びました。



◇県外調査 東京探索

日時 平成16年8月18日～20日
場所 立教大学、東武百貨店、攻玉社学園

*東京調査報告書にて紹介しています。

◇第3回学習会 菅島灯台を調査せよ

日時 平成16年10月23日(土)
場所 菅島

午前11時35分発菅島行市営定期船に乗船。菅島に着くと早速、島一周ウォーキング&調査へ。

採石場を初めて見る団員達は、驚いた様子で地元の中村さんから説明を受けました。その後、1983年4月19日早朝、菅島へ墜落した自衛隊機C-1、09号機の第1慰霊碑と15号機の第2慰霊碑に手を合わせました。



大山(236m)山頂を通過し、神島方面を見渡すと左手に答志島、正面に神島、右手に太平洋の海原が続く素晴らしい景色が望めました。そして、山頂から灯台へ向かう途中にある監的哨屋上で昼食。素晴らしい眺めを堪能しながら弁当を美味しく味わっていました。

1873(明治6)年の菅島灯台完成式に、時の参議・西郷隆盛が出席していたことから、塩野明智小五郎から「なぜ西郷が激動の時代に、菅島まで足を運んだのか」と、文献では詳細が確認されていない灯台点灯式にまつわる「謎」について話し合いました。竹内団員は「名前は知っていましたが、西郷という人

についていろいろなことを考え、とても勉強になりました」「人に聞くよりも積極的に行動していくことが自分の糧になると思います」と話していました。



[レンガ造りでは日本最古]



[菅島灯台のレンガ・屋号入り]

◇第4回学習会

真琴が愛した鳥羽の海を望む

日時 平成17年1月15日(土)
場所 国崎、海の博物館

第4期まとめの学習会は、「真琴が愛した鳥羽の海を望む」と題して、相差、国崎、石鏡方面の海岸線から海を眺めました。

最初に訪れたのは、相差の菅崎園地。明治

時代に座礁し、沈没した「駆逐艦春雨」の殉職者慰霊碑です。死者45名という大惨事で、その救助活動には地元の青年団や漁師、海女たちが多数参加した話を塩野明智小五郎役から説明を受けました。団員達は、海の恐ろしさや鳥羽でこのような出来事があったことを知り驚いていました。



次に訪れたのは、国崎の鎧崎灯台。志摩半島の最東端にあり、海の難所として昔から漁師達が恐れていた鎧崎の荒々しい岩礁には、白い波が打ち寄せていました。



鳥羽展望台と石鏡灯台に寄り、海の博物館へ到着。早速、第4期活動のふりかえりを行いました。

調べることは大変なこと

○中本梨絵（鳥羽東中）

近藤真琴の調査を終えて、一つのことを調べるということが、こんなにも大変なことだとは思いませんでした。鳥羽少年探偵団の活動では、攻玉社学園や江戸川乱歩邸での調査が印象に残っています。他校の友達もでき、いい経験になりました。鳥羽少年探偵団の活動は終わりましたが、またみんなと会いたいです。

知らないことがたくさん

○安藤梨乃（鏡浦中）

今までの調査を通して、近藤真琴がオランダ語や英語を自分で勉強したことや、いろいろなことに挑戦している人だということが分かりました。鳥羽少年探偵団でいろいろな所へ行き、いろいろな人から聞いて調査していく中で、鳥羽に住んでいても知らないことがたくさんありました。

鳥羽少年探偵団を振り返る

○明智小五郎役・塩野明俊

鳥羽少年探偵団の皆さんには、今回の活動を通して学んでほしかったことが三つあります。一つは「自分の意見をはっきり言える人になってほしい」。物事をはっきり言える人は、どんなことでもできると思います。ふたつ目は「ボランティアの心を持ってほしい」今回の活動に、たくさんの方の協力があったことを忘れないでください。最後に、「海をきれいに」です。近藤真琴を通して、海についても多くを学びました。鳥羽には海と向かい合っ生活している人がたくさんいることを忘れず、大切な海の環境や資源を守ってほしい。

活動してきた経験を生かし、鳥羽のために頑張ってもらいたい。



〔横浜みなとみらい・帆船日本丸〕